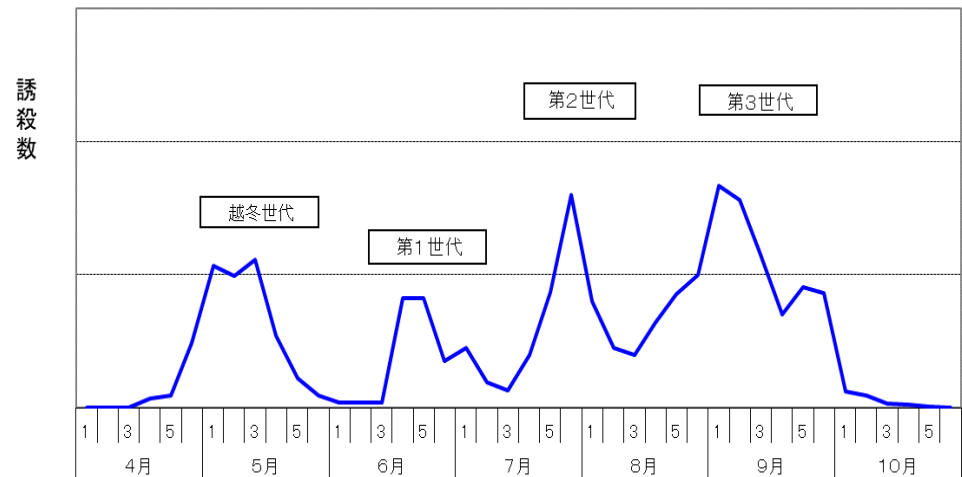


スモモヒメシנקイのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

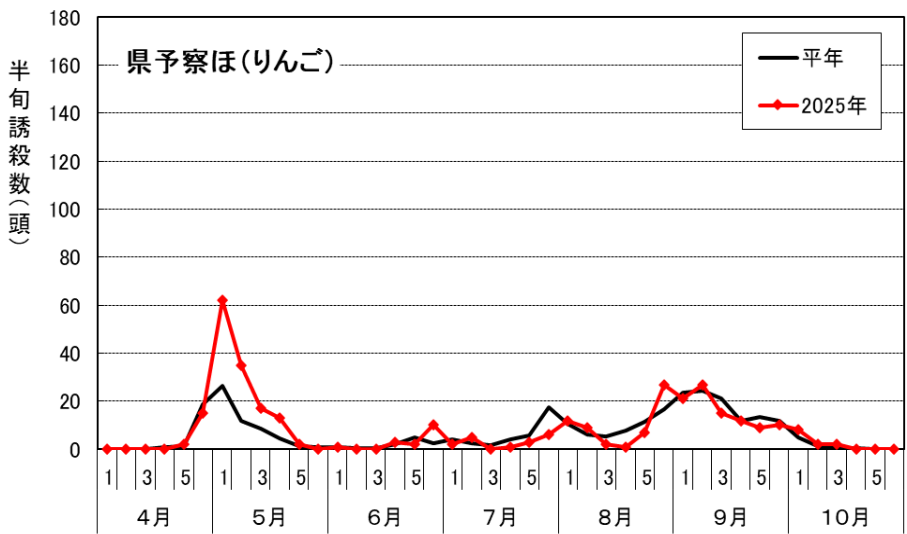
過去 10 年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年 3 ～ 4 回発生する。
- ・越冬世代成虫は 4 月下旬～ 5 月上旬、第 1 世代成虫は 6 月下旬～ 7 月上旬、第 2 世代成虫は 7 月下旬～ 8 月上旬、第 3 世代成虫は 9 月上旬に発生する。
- ・日本すももは、第 1 世代、第 2 世代の卵及びふ化幼虫の防除を行う。
防除適期はそれぞれ 5 月上旬～ 6 月上旬、6 月下旬～ 7 月中旬であり、10～14 日間隔で防除する。
- ・りんごは、第 3 世代の卵及びふ化幼虫を対象に、8 月中旬頃から 5 ～ 7 日間隔で防除する。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



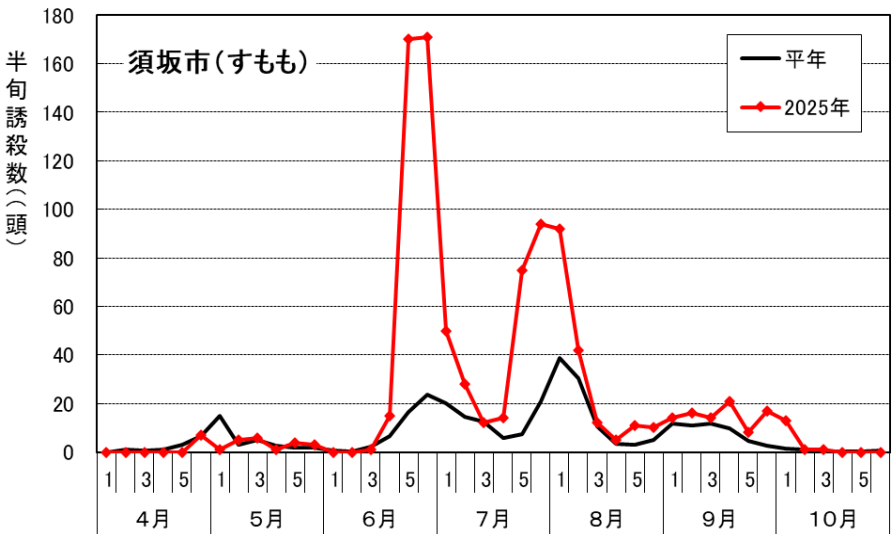
【調査地点】（標高約 350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は 2015 年～2024 年の平均値

【コメント】

- ・平年とほぼ同じ発生消長を示した年であった。
- ・誘殺頭数は越冬世代は平年より多かったが、以降はほぼ平年並であった。

○須坂市（病虫害防除部）



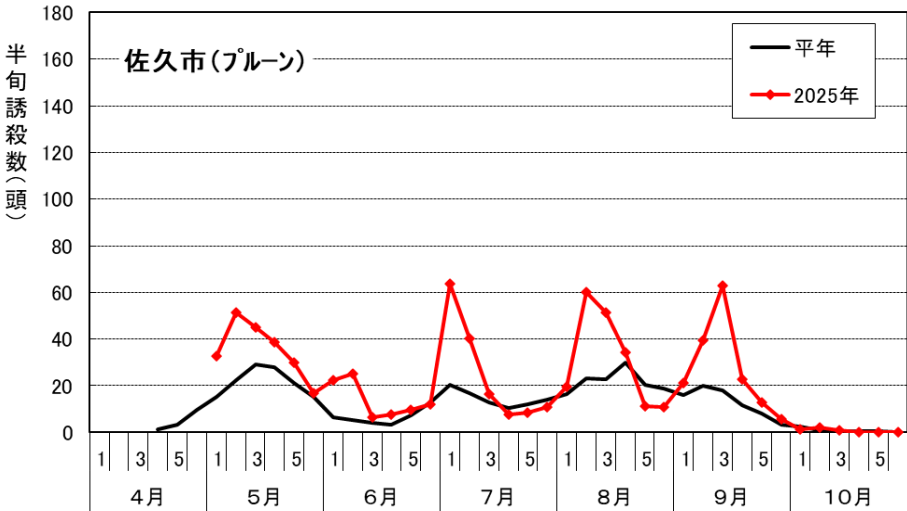
【調査地点】（標高約 370m）

- ・須坂市（日本すももほ場）
- ・平年は 2015 年～2024 年の平均値

【コメント】

- ・越冬世代の誘殺は少なかったが、第 1 および第 2 世代の誘殺頭数はそれぞれ平年の 8 倍および 2 倍の数が記録された。
- ・栽培終盤の誘殺頭数も平年より多く、発生期間の延長傾向が認められた。

○佐久市（※佐久農業農村支援センター調査協力）



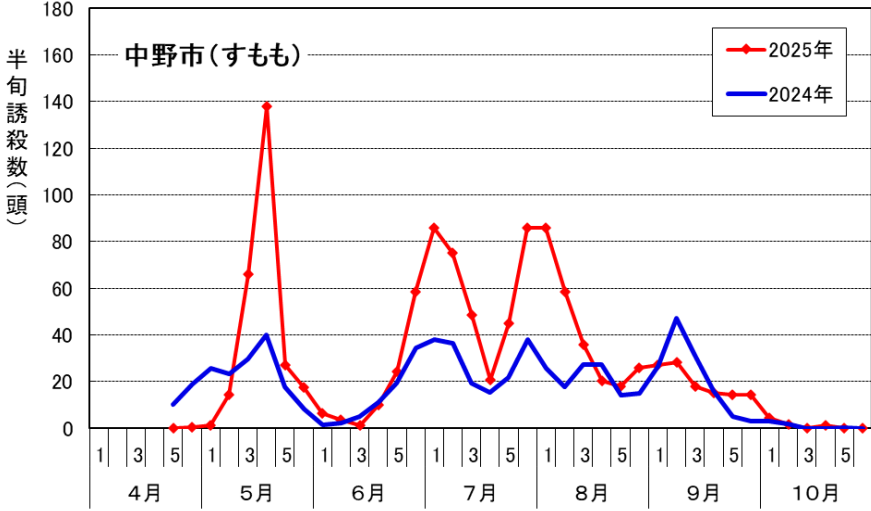
【調査地点】（標高約 730m）

- ・佐久市（プルーンほ場）
- ・平年は 2015 年～2024 年の平均値

【コメント】

- ・平年より世代と世代の間の誘殺頭数の変動がはっきりしており、各世代のピーク時と減少時の誘殺頭数が平年より大きかった。
- ・発生量自体も平年より多く、各世代ピークの誘殺頭数は平年の 2 ～ 3 倍であった。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 350m）

- ・中野市（日本すももほ場）
- ・2024 年からほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・世代ごとの誘殺頭数の変動がはっきりしており、かつ佐久地区と同じ様にピーク時と減少時の差が大きかった。
- ・誘殺頭数も前年より多く、発生量の多い年であった。